

## 第2章 子どもと子育て家庭を取り巻く現状

### 1. 小野市の沿革・地勢等の概要

小野市は、昭和29年（1954年）12月1日に旧の小野町、河合村、来住村、市場村、大部村、下東条村の6ヶ町村が合併して市制施行し、昭和31年（1956年）4月1日に旧の加東郡社町の久保木、古川を編入し、面積は93.84平方キロメートル、人口3万6621人で誕生しました。

地勢は、兵庫県の東播磨地域の内陸部に位置し、東は三木市と加東市、西は加西市、南は三木市、北は加東市に接しており、ニワトリの形状をしています。南流している1級河川「加古川」と国道「175号」が南北方向に縦断し、平野部と台地又はなだらかな山間部地勢で、古くから「そろばん」と「家庭用刃物」の生産地として発展してきた「川と緑の美しい自然と伝統ある文化のまち」です。

昭和54年（1979年）には、主要幹線道路「国道175号バイパス」の部分完成と新都市建設「小野工業団地」の完成、また、平成9年（1997年）には山陽自動車道の全線開通により、東播磨の中心都市として順調に飛躍してきています。

平成14年（2002年）には「ひまわりの丘公園」が、平成16年（2004年）には「白雲谷温泉ゆぴか」が、平成17年（2005年）には「うるおい交流館エクラ」がオープンし、平成21年（2009年）には全国に先駆けて「子どもの医療費助成」を拡大して「中学校3年生まで完全無料」とし、平成25年（2013年）には旧の小野市民病院と三木市民病院とが統合された「北播磨総合医療センター」が開院したことにより、地域医療体制が整いました。

公共交通は、「粟生駅」を結節点駅とした神戸電鉄粟生線により、神戸新開地駅まで至り約60分、JR加古川線は平成16年（2004年）に電化されてJR加古川駅まで至り約20分、北条鉄道は加西市域に接続しています。バス路線では、神姫バスの定期路線に加え、平成19年（2007年）からコミュニティバス「らん♡らんバス」の運行が始まり、現在では市域10路線となっています。

文化財は、国宝「浄土寺」が奈良「東大寺」と由緒が深く、史跡も「広渡廃寺跡」「王塚古墳」「かなつるべ城遺跡」などがあります。

市花「ひまわり」は、明るく健康的で雄大かつ謙譲の美德を兼ね備えていることから昭和41年（1966年）に公募制定され、市木「やなぎ」は、一柳藩の陣屋町で栄えたことから「柳」の文字に親しみがあり、「柳に雪折れなし」と嵐に

も耐えてすくすくと育ち強い根を張ることから昭和48年（1973年）に公募制定されています。

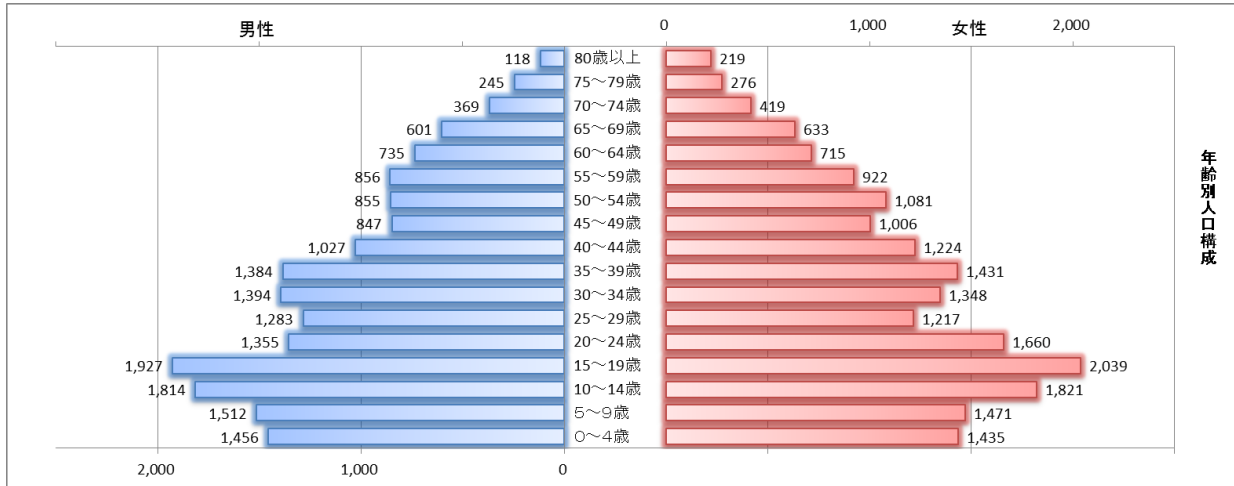
姉妹都市は、アメリカ合衆国カリフォルニア州の「リンゼイ市」で、昭和48年（1973年）に締結し、オリーブやオレンジなどの柑橘類の栽培がたいへん盛んな人口1万人のまちです。姉妹都市提携の締結以降、親善訪問使節団や交換教師の派遣受け入れをはじめ両市の友好は深く、小野市花「ひまわり」の太陽の色に囲まれて、同じ色を愛する人々の幅広い親交活動が続いています。

2. 統計からみる現状

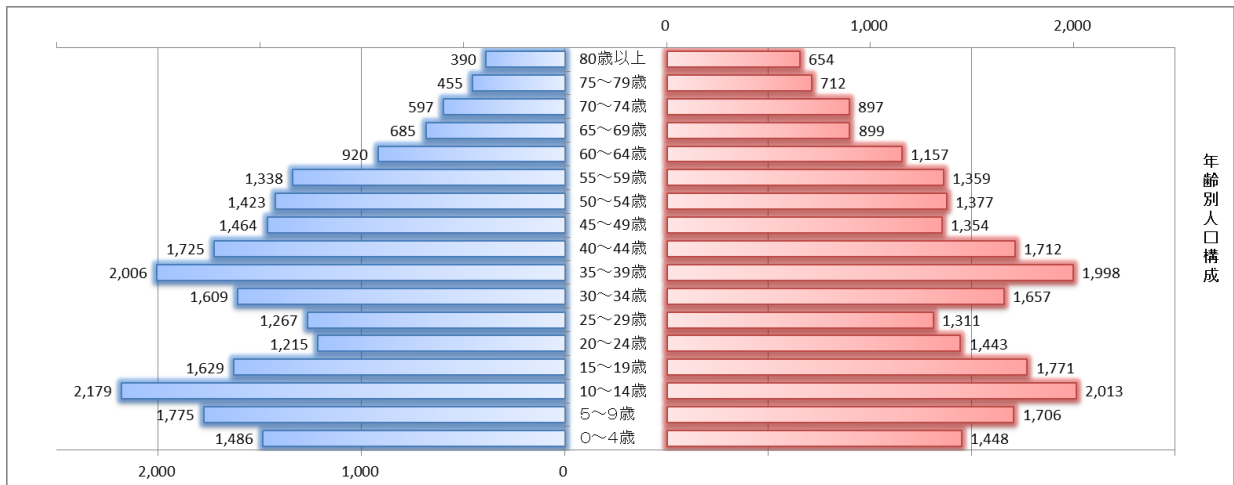
(1) 小野市の人口動態(男女別・年齢別人口構成)

(資料：国勢調査)

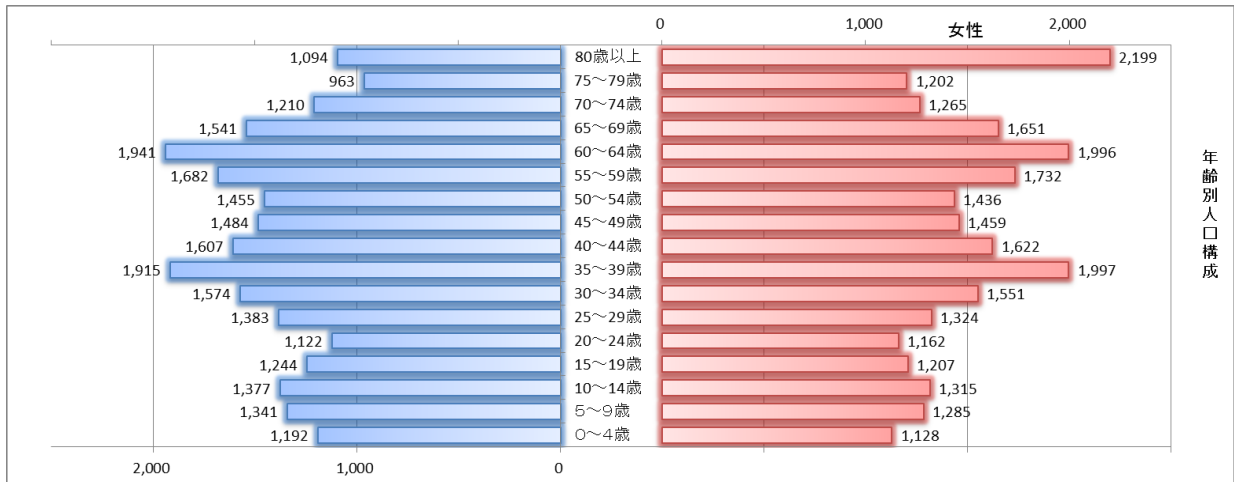
昭和40年(1965年)富士山型 第一次ベビーブーム世代(1947~1949年生まれ)が思春期



昭和60年(1985年)つりがね型 第二次ベビーブーム世代(第一次から約25年差)が中学生

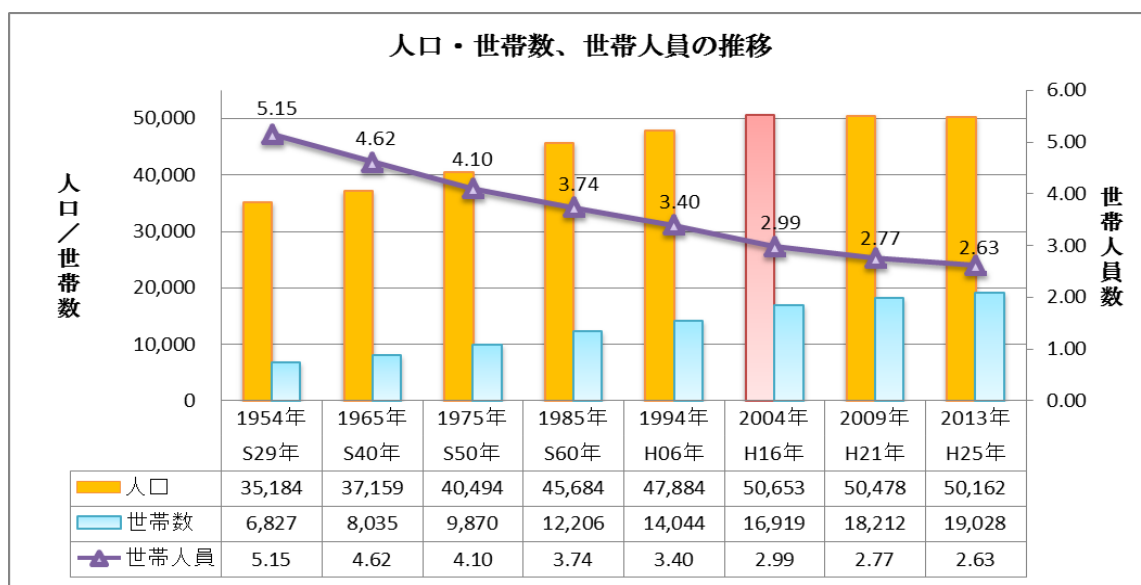


平成22年(2010年)つぼ型 小野市でも第三次ベビーブームは訪れておらず少子高齢化が進行



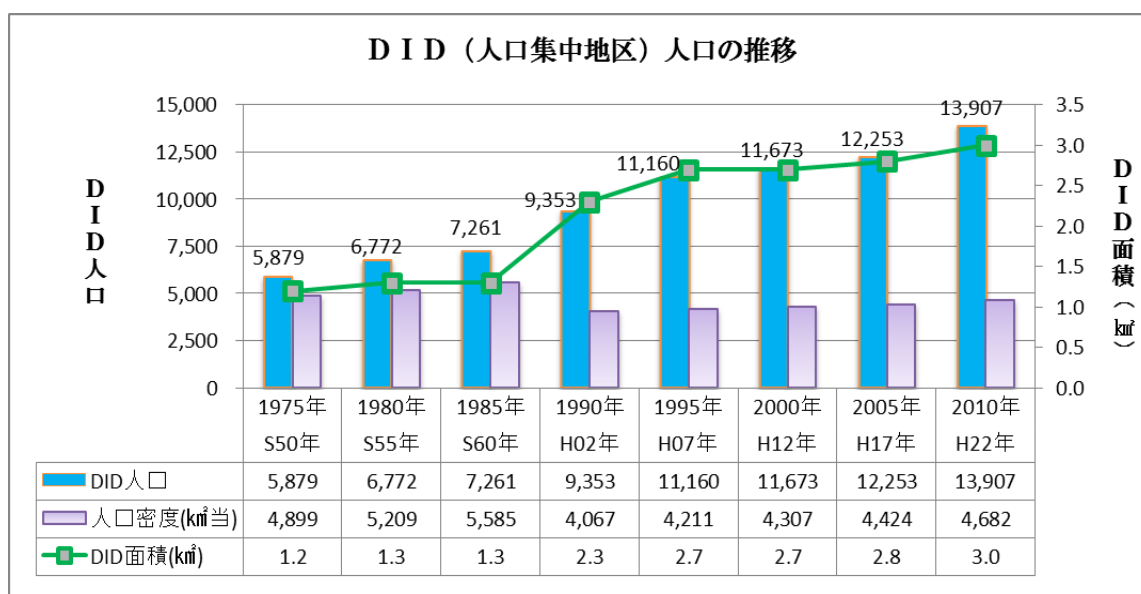
(2) 小野市の人口・世帯数・世帯人員推移（資料：市民課／各年次3月31日現在数）

小野市の人口は、市制施行した昭和29年（1954年）から順調に増加していたが、平成16年（2004年）をピークに減少に転じている。また、この間に核家族化が進行し、現在における一世帯当たりの人員数は、市制施行時の約半分に減少している。



(3) DID（人口集中地区）人口の推移（資料：国勢調査／各年次10月1日現在数）

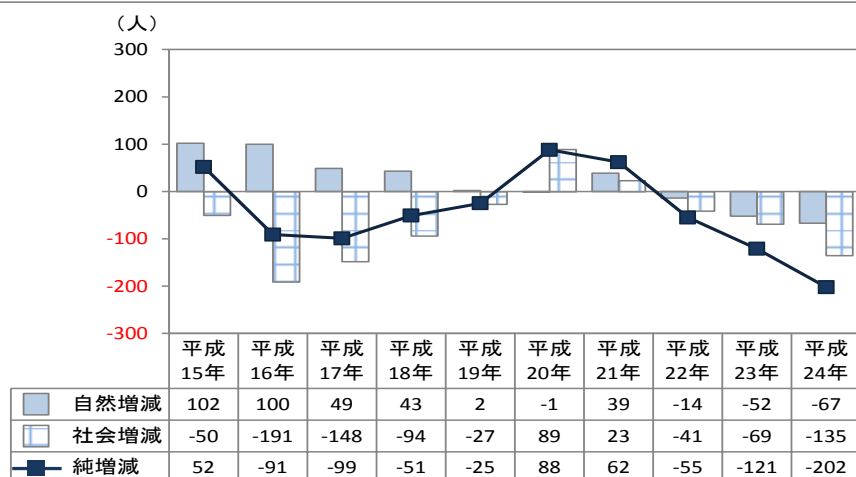
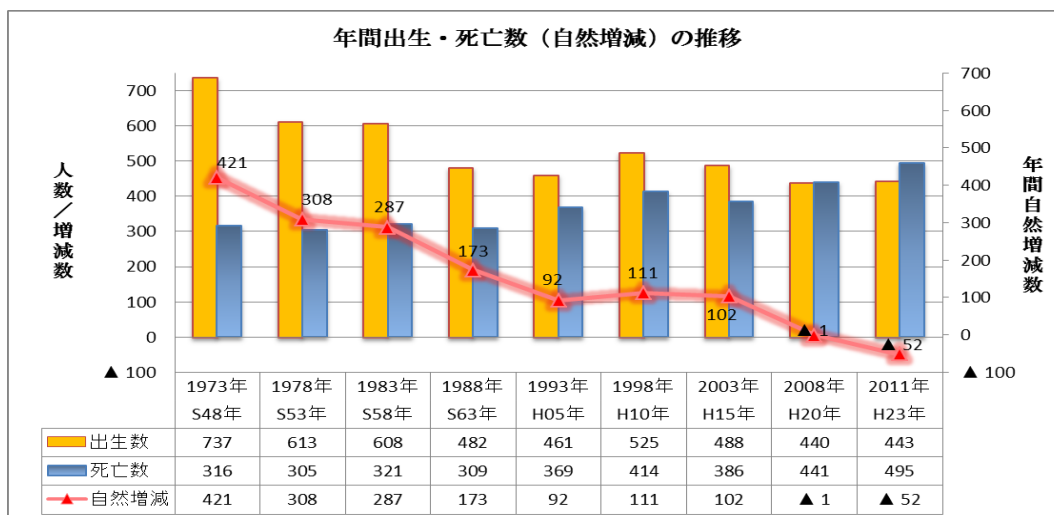
小野市人口の地域分布は、中心市街地域への集住が進行し、現在では市域面積の3%であるDID区域内に、市域人口の約4分の1の市民が居住している。



D I D（人口集中地区／Densely Inhabited District）とは、昭和35年の国勢調査以来設定している統計上の地区で、人口密度が1平方キロ（100ヘクタール）当たり4,000人以上の基本単位区が、隣接する基本単位区との合計で、5,000人以上となる連なった人口密集区域をいう。

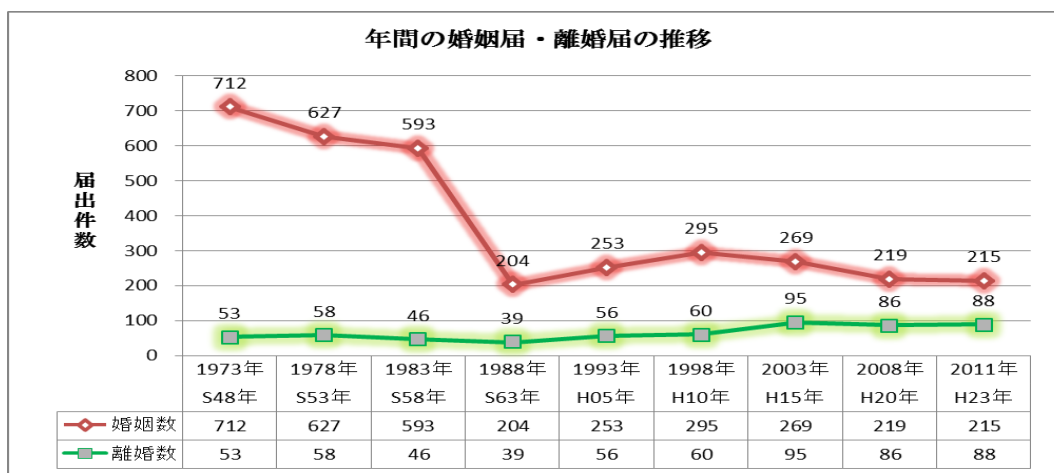
(4) 小野市の自然増減・社会増減の推移(市民課/年度集計4月1日～翌年3月31日)

小野市における年間の出生数と死亡者数(自然増減)の推移は、40年前では概ね出生数2人に対して死亡者数が1人でしたが、平成20年(2008年)からは、出生数が死亡者数を下回る状況に転じて自然減となっています。



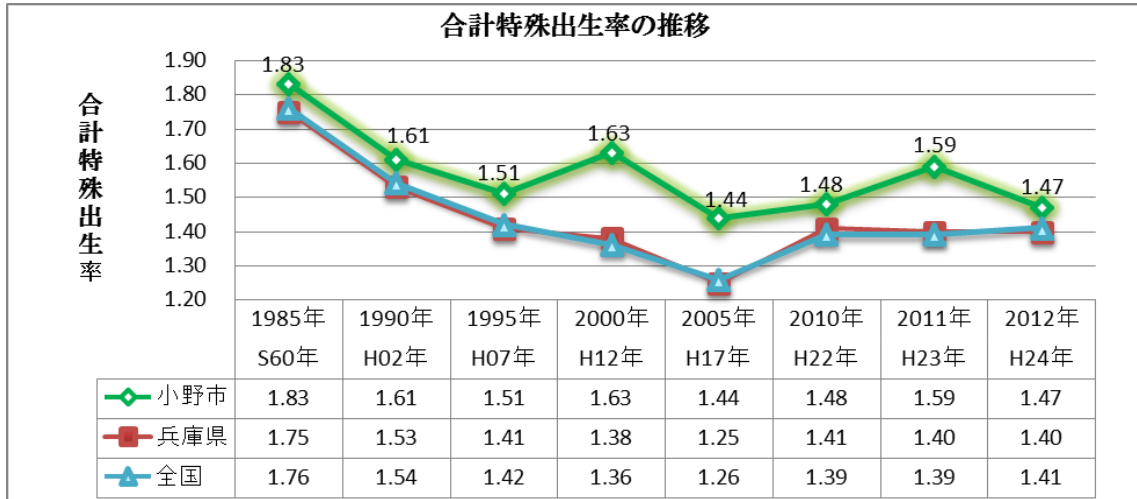
(5) 年間の婚姻届・離婚届の推移(資料:市民課/年度集計4月1日～翌年3月31日)

小野市における年間の婚姻届・離婚届の推移は下表のとおりとなっています。



(6) 合計特殊出生率の推移 (資料: 市民課/年度集計 4月1日～翌年3月31日)

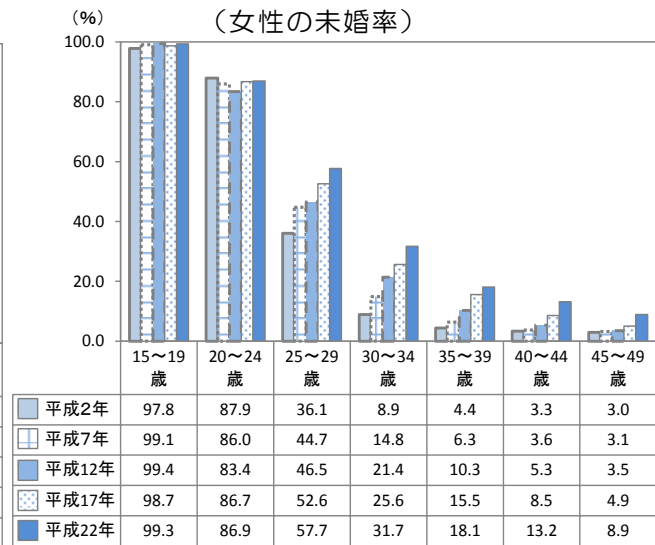
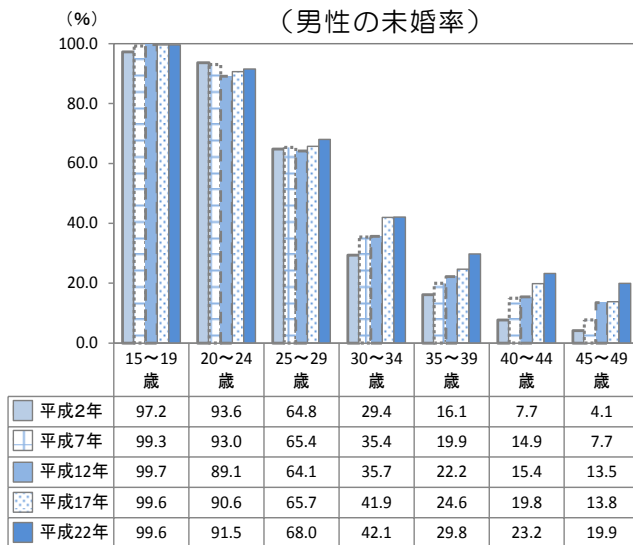
小野市における合計特殊出生率の推移は、下表のとおりとなっています。



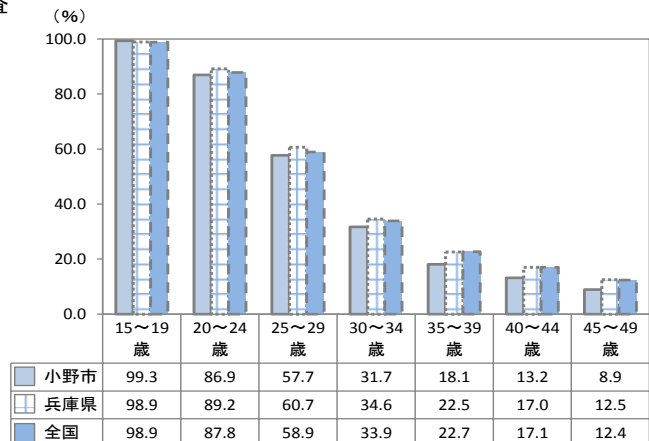
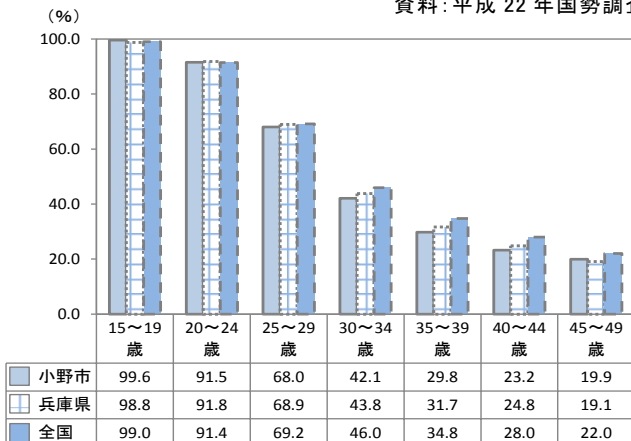
人口置き換え水準（人口が将来にわたって増えも減りもしないで、親の世代と同数で置き換わるための大きさを表す指標）に見合う合計特殊出生率は、2.07程度とされています。

(7) 小野市の未婚率の推移

資料: 国勢調査

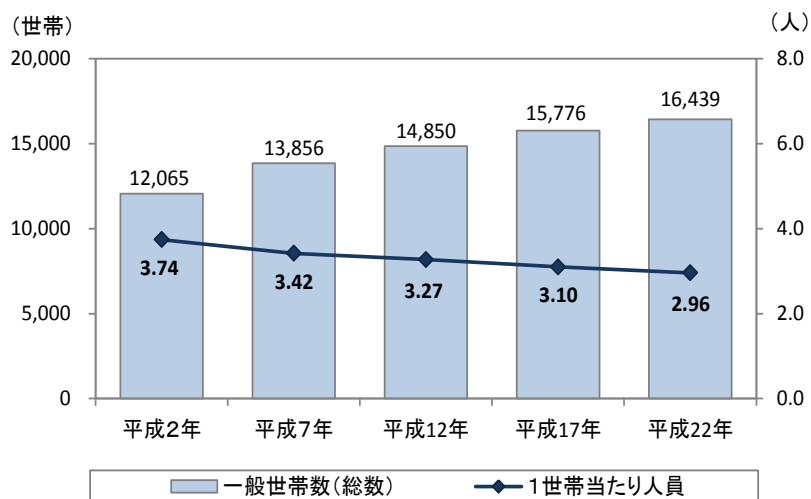


資料: 平成22年国勢調査



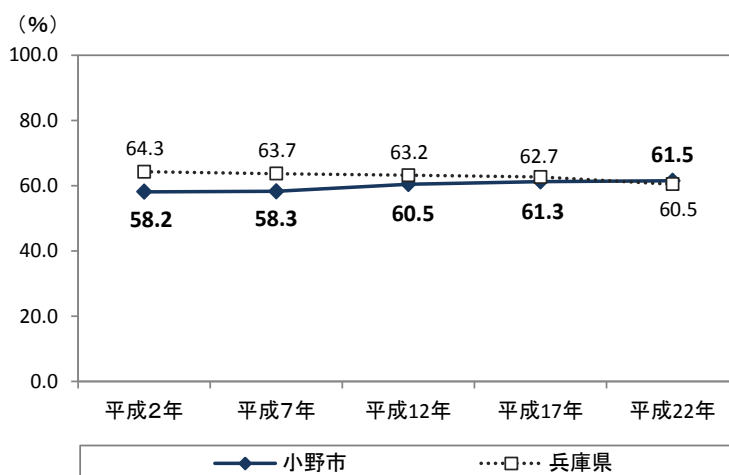
(8) 小野市の世帯の状況

ア) 世帯数と1世帯当たり人員数の推移



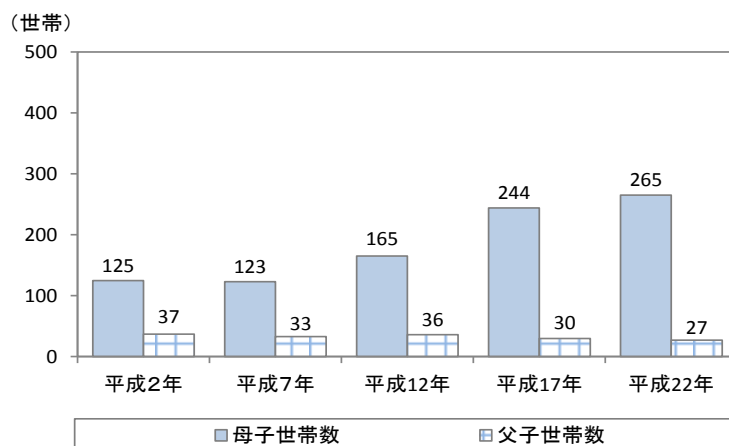
資料: 国勢調査

イ) 核家族世帯の割合の推移



資料: 国勢調査

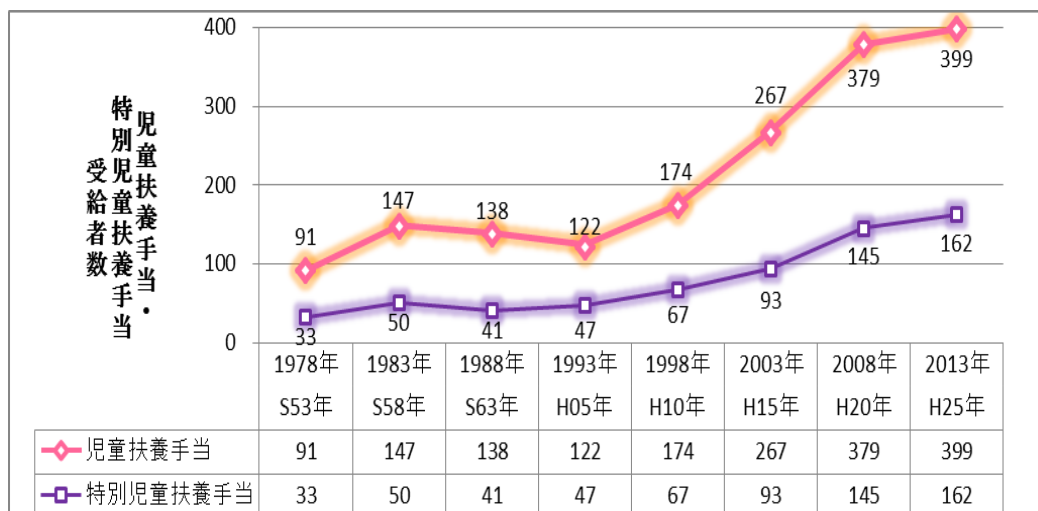
ウ) ひとり親世帯数の推移



資料: 国勢調査

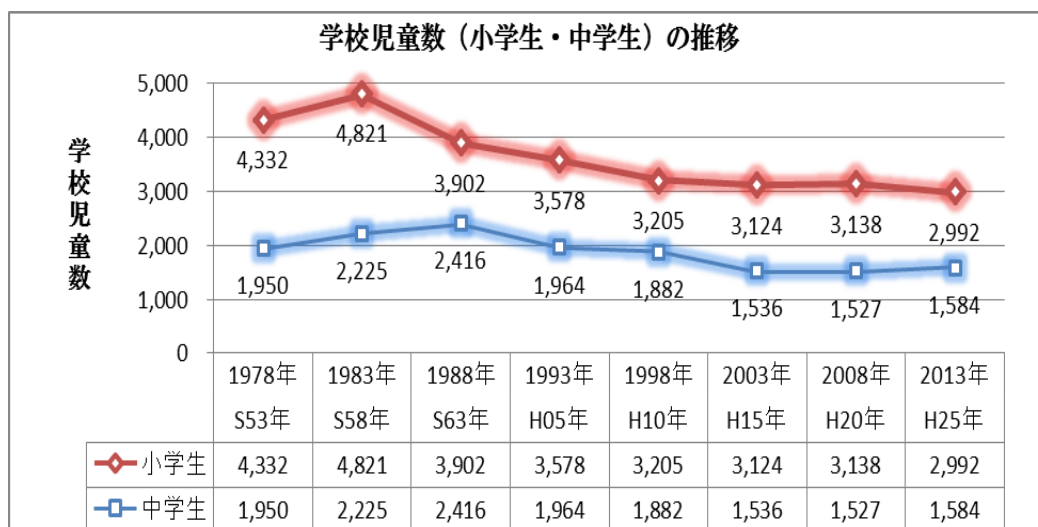
工) 児童扶養手当、特別児童扶養手当受給者数の推移（各年3月末現在数／保健と福祉）

児童（満18歳に到達した年度の末までの児童等）を養育しているひとり親（母子・父子）家庭へ支給している児童扶養手当、20歳未満で心身に中度以上の障がいがある児童を養育している家庭へ支給している特別児童扶養手当について、それぞれの受給者数の推移は、下表のとおりとなっています。



(9) 小野市の学校児童数（小学生・中学生）推移（各年5月1日現在数／国勢調査）

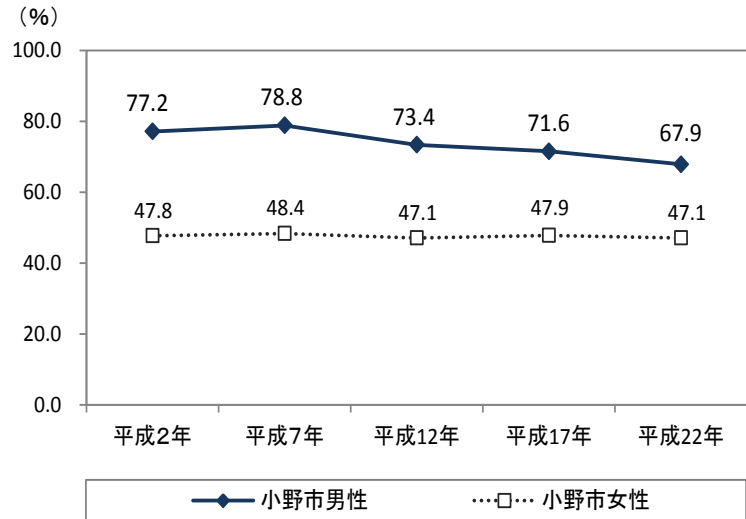
小野市における学校児童数（小学生・中学生）の推移については、下表のとおりとなっています。





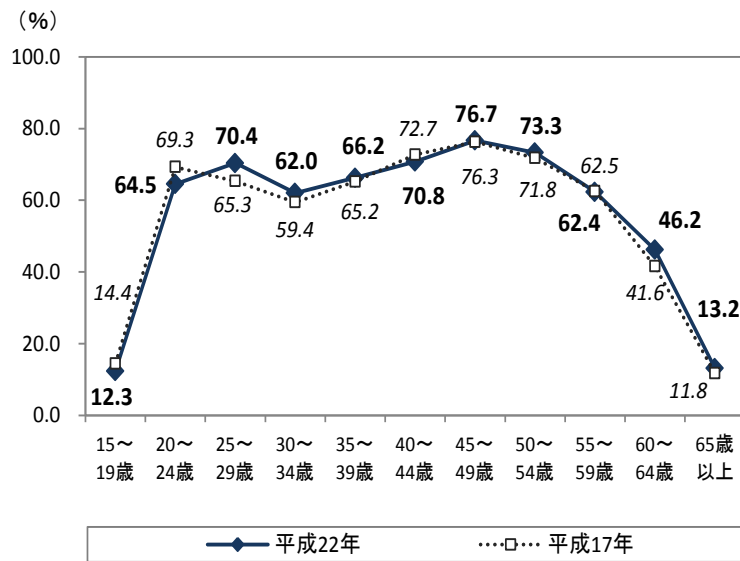
(10) 小野市における就労状況等

ア) 男女別就業率の推移



資料：国勢調査

イ) 女性就業率の推移



資料：国勢調査

